

平成二十七年入学試験問題（前期日程）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、 解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、 解答時間は、一五〇分である。
- 五、 縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問題

非公開

非公開

非公開

非公開

(荻野美保「解説」、エリザベート・バダンテール著／鈴木晶訳『母性という神話』筑摩書房、

一九九八年、五〇九～五一八頁、抜粋・一部改変)

問一 本文の論旨を六〇〇字以内でまとめなさい。

問二 本文にある「母性愛とは女にはじめから備わった自然や本能などではなく、近代が生み出した歴史的産物にすぎない」という主張に対して、本文の内容も踏まえて、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

平成二十七年入学試験問題（前期日程）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科・琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、「母性愛とは女にはじめから備わった自然や本能ではなく、近代が生み出した歴史的産物にすぎない」という主張を骨子とした書籍『母性という神話』の解説文である。本出題の意図は、「母性愛」や「家族」、ひいては「男」「女」等という、いつの時代でも変わらない「自然」と考えられてきたものが、歴史的、文化的に特異な「制度」でしかないという主張する文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。加えて、本文で提示されている「母性愛は本能ではない」という主張に対して意見を論述させることで、母性愛などといった固定観念が生み出される歴史的、文化的背景について論じた文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。